

海運の重要性を学校教育の場で
～栗林商船の協力を得て RORO 船等の見学会を開催～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、栗林商船のご協力のもと、9月1日（土）に東京都有明ふ頭において、都内の小学校教員の方々を対象に RORO 船およびロール紙倉庫見学会を実施し、11名が参加しました。

当日は、RORO 船「神瑞丸」に乗船し、貨物艀で本船の主要貨物であるロール紙がトラックに積み込まれていく様子やシャーシ（海上コンテナを専用に積載するトレーラ）等を見学した後に、操舵室にてレーダーなどの機器や海図の説明を受けました。その後、談話室にて、「同社が開発した RORO 船の誕生秘話」「災害時における内航船の活躍」「外航船から内航船に積みかえられ二次輸送を担っている」等の説明があり、参加者からは「なぜ小さい船に積み替える必要があるのか」「船が遅れる主な原因は」など多くの質問がなされ、活発な意見交換が行われました。



本船見学後は、5階建ての巨大なロール紙倉庫を見学し、高く積み上げられている大量のロール紙は教科書や雑誌など身近な製品のもとになること、これらは約1か月で入れ替わることなどの説明がありました。また、特殊な形をしたフォークリフトを用いていること、倉庫内では湿度や油分には十分な配慮が必要など荷役や保管の工夫についても知ることができました。

同見学会を通じて参加者からは「船が国内輸送の4割を支えてるとは知っていたが、何故かということが理解できた」「日常使う製品でも船が大きく関係していることが実感できた」「災害時には車を運んでいたことは知らなかった」などのコメントが寄せられました。

当協会では、今後とも皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

